

みらいのわたし

令和 5 年 3 月 2 日(木)

発行

大田区立志茂田中学校

生活指導便り No.10

インターホンから考える

今月の朝礼で「あいさつ」「時間」「服装」などを例に、基準の高い志茂田中にしようという話をしました。学校での生活を事細かにすべて決まりで縛ることはできません。どのような言動が適切か、相手を思いやり、様々なことに考えを巡らせながら、自分で判断していく必要があります。さて、タイトルにあるインターホンに関する出来事です。



先日、たまたま事務室にいた時にインターホンが鳴りました。すぐに事務室の方が「はい」と応答してくれます。鳴らしたのは遅れて登校した生徒でした。インターホンのカメラを一瞥し無言で立っています。事務室の方が「鍵開けますねー」と声をかけ、開錠のボタンを押し、電子錠を開けてくれました。その生徒は黙って、通用門を開けて入って行きました。

何か事情があったのかもしれませんが、あいさつもなく、お礼の一言もなく、してもらって当然、とさえ感じ取れる様子に、違和感を覚えました。さらに驚いたのは、このような生徒が最近多い、と聞いたことです。(カメラ付きのインターホンやオートロックのマンションが増えた今、近年のマナーが異なるのかもしれませんが…)「門を開けてもらったらお礼を言う」「インターホンを鳴らしたらまず名乗らなければならない」という決まりはありません。しかし決まりがなくとも、必要なことではないかと感じます。

生徒が職員室を訪ねる際は、バッグを降ろし、マフラーなどを取り、「*年*組****です。日直日誌を取りに来ました/〇〇先生お願いします(いらっしゃいますか?)」というやり取りをするよう伝えていきます。こういった一つ一つの礼儀・マナーを大切にしないといけないと感じた出来事でした。形だけを整えることに終始するのは本末転倒ではありますが、心は形を求め、形は心をすすめるという言葉にある通り、行動として形に現れるものだと思います。どのような言動が適切か、相手を思いやり、様々なことに考えを巡らせ、行動していきましょう。

2月の情報モラル教育

2月の「情報モラル教育」についてご報告です。3月には保護者会(1・2年のみ)もあります。ご家庭での様子、困りごとなども、ぜひお聞かせください。

1組 SNS

SNS は人と人を結ぶ便利な道具です。一方で、お互いの意思疎通が迅速に行われる反面、多くの人とつながりすぎたりしてトラブルが起きやすい欠点があります。今年度の1組では、LINE を介したトラブルが何度か起こりました。友達とのやり取りのスクショや連絡先を、相手の許可なく他の友達に送ることがありました。また、唐突に脈絡のないスタンプや文章、画像などを送り、相手に不快な思いをさせることもありました。「相手の気持ちを想像する」ひと手間を大事にすることを、全体で確認しました。便利な道具ほど慎重に使いましょう。(文責:清水)

2学年 ネットでの正義感

善意で行ったはずの行動が裏目に出てしまうことがあります。今回の事例では事件が早く解決できるようにとネットで拡散したことで、別の被害を出し、拡散した当人も予想外の展開になってしまいました。この事例から「正しいと思ったことを伝えるときにも気をつけなくてはいけない」「どんな理由であれ、人を攻撃するようなことはネット上でもしてはいけない」「一度拡散されてしまったものをすべて消去することはとても難しい」ことを確認出来たのではないのでしょうか。落ち着いてじっくり考えてから行動しましょう。(文責:小川)

1学年 SNS

SNSの中には、利用している人なら誰でも見ることができるものもある。個人やグループ内のやりとりだからといって安心できるわけではない。書き込みを外部に流す人がいる可能性もある。今回の題材は、自分の個人情報や流さないことはもちろん、友達の情報も書き込まない、気をつけていても過去の書き込みや、つながっている人の情報をつなぎあわせることで、個人の特定ができてしまう危険性について学習しました。中学生だと特定されてしまうキーワードを考え、大切なことは直接やりとりを行うことなどを学級全体で共有しました。(文責:湯木)

3学年 著作権を守る

先月に引き続き「著作権」についての学習でした。これまではトラブルに対して被害者や加害者にならないように、という当事者意識に訴える視点でしたが、今回は社会にどのような影響を及ぼしてしまうか、著作権の侵害によって、不利益を被る人がいることを知る機会となりました。

自分自身が困るかどうか、自分の家族がどうなってしまうか、という注意喚起だけにとどまらず、共に生きる社会の中で、他者の視点で物事を考えることができたのなら、それは大変素晴らしいことだと思います。(文責:平沼)